

*SuperStream-CORE*

# 財務会計パッケージの機能等一覧表

システム管理基準 追補版(財務報告に係るIT統制ガイダンス)  
追加付録 付録7

エス・エス・ジェイ株式会社



プロダクト	<b>SuperStream -CORE</b>	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

### 【3】 概要

この資料は、平成19年12月26日に経済産業省が公表した基準『システム管理基準 追補版（財務報告に係るIT統制ガイダンス）追加付録』を踏まえ、**SuperStream-CORE**シリーズについて『付録7. 財務会計パッケージの機能等一覧表』の結果をまとめたものである。

プロダクト	SuperStream-CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

#### 【4】 前提条件

1. 本資料は、**SuperStream-CORE**シリーズ2007年7月版（ログ強化版）の標準機能に基づいて記載する。  
機能一覧表については、ログ強化対応版を適用していることを前提として記載するものとする。
2. パッケージは、カスタマイズせず市販の状態のまま利用していること。（システム管理基準 追補版（財務報告に係るIT統制ガイダンス）追加付録 付録7 はじめに より）
3. カスタマイズとはソースプログラムを変更して利用することであり、パラメータ設定の選択及び調整はカスタマイズに含まない。（同上）
4. ユーザーがシステムに追加したアドオンについては、本資料の機能一覧表では対象外とする。
5. **SuperStream-CORE**を例にとると「コントロール情報登録」「ユーザーマスタ登録」等にて、システム初期設定項目（パラメータ）の設定が可能となっている。  
本資料の機能一覧表の結果については、以下の設定内容を前提とする。ユーザーの設定内容が下記と異なる場合は、機能一覧表の結果を適宜、見直す必要がある。

画面名	項目名	設定内容	関連箇所
コントロール情報登録 (CORE)	仕訳承認処理、入出金承認処理 外部データ修正可否区分  履歴区分	承認する 外部データ修正不可  取る（適用日を登録）	1-2 仕訳データ確定の承認機能 2 インターフェースの「統制目標」 2-1 アプリケーションとしてのインターフェース機能 2-2 汎用データによるインポート機能 5-2 電子帳簿保存法への対応可能性
ユーザーマスタ登録 (CORE)	承認済伝票修正 前年仕訳	しない（チェックを外す） 入力しない（チェックを外す）	1-3 変更の可能性と履歴の保存及び追跡可能性 4 繰越処理の「統制目標」
月次更新 (CORE)	一般締め、決算締め、（配賦締め）	月次伝票、決算伝票の入力完了直後 すみやかに締め処理を行う。	1-3 変更の可能性と履歴の保存及び追跡可能性
勘定科目税区分登録 (CORE)	税処理コード	勘定科目別に税処理コード（課税、非課税、対象外）を登録する。	5-1 消費税の処理
仕訳入力 (CORE)	税処理コード&消費税額	1. 事前に登録した税処理コードに基づき、消費税を自動計算する。 2. 税額を変更する場合は、消費税欄を直接上書きする。 3. 仕訳の明細行を分けた形式での消費税の登録は行わない。	
科目セキュリティ登録 部門セキュリティ登録 メニューセット メニューグループ	科目セキュリティコード 部門セキュリティコード メニューセット メニューグループ	権限範囲の異なるセキュリティコードを複数登録し、ユーザー別に紐づけ 権限範囲の異なるメニューセットを複数登録し、ユーザー別に紐づける。	8-1 システムに対するアクセス制限

プロダクト	SuperStream -CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

【5】 財務会計パッケージの機能等一覧表

質問の カテゴリ	想定する リスク	統制目標	質問項目	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表 場所 (URL など)	
							デフォルト (基本設定)	オプション 選択可能	電子帳簿保 存法対応の 場合のみ		
*は、電子帳簿保存法の要求している要件											
1 データの 入力	入力される データに漏 れや重複があ る。	入力データに ついて完全 性、正確性、 正当性を維持 することがで きる。	1-1 入力の正確性と完全性の確保								
			1 入力の正確性を確保するため、入力時のマスタ・ファイル チェック、論理チェック等、プログラムによるチェック機能 があるか。  ①伝票日付と会計期間の整合性のチェック機能 ②貸借金額のバランスのチェック機能 ③勘定科目(コード)のマスタへの実在性のチェック機能 ④勘定科目の貸借の位置に関するチェック機能								
			2 入力原票との正確性チェックに利用できる帳票出力機能 があるか。(ある場合は、帳票名を記載)					帳票 仕訳チェックリスト			
					3 データの入力後、入力総件数や合計金額に関するトータル チェックをおこなうための出力機能があるか。						
	1-2 仕訳データ確定の承認機能										
	1 仕訳データの登録確定に関する権限者による承認機能が あるか。										
	2 承認の履歴を保持し、表示、検索できる機能があるか。										
	1-3 変更の可能性と履歴の保存及び追跡可能性										
	1 確定登録済み仕訳データの変更を禁止し、赤伝票、黒伝票 による訂正のみとすることができる機能があるか。*										
2 確定登録済み仕訳データを画面から直接に呼び出して変更 可能としている場合に、変更証跡を残す機能があるか。*											
3 以下の一定の期間について、仕訳データの追加、訂正を禁 止する機能があるか。  ①会計期間 ②半期 ③四半期 ④月次											
4 一旦、一定の期間について、仕訳データの追加、訂正を禁 止する設定とした後で、その設定を解除した場合に解除の 記録は残す機能があるか。							会計カレンダーの 更新日付を参照する				
5 変更した仕訳データの履歴が保存され、変更前後の仕訳 データの対応を含めた検索、表示する機能があるか。							伝票履歴管理リスト 明細履歴出力[する]				
正当で無い データ(未承 認)が入力さ れる。											
入力された データに正当 で無い変更が 行われる。											

プロダクト	SuperStream -CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

質問の カテゴリ	想定する リスク	統制目標	質問項目	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表 場所 (URL など)
							デフォルト (基本設定)	オプション 選択可能	電子帳簿保 存法対応の 場合のみ	
*は、電子帳簿保存法の要求している要件										
2 インター フェース	他のシステム から不正な データを受け 取る。  他のシステム から受け取る データが重複 欠落する。	他のシステム から受け取る データは正 当、正確、完 全である。  システムから 出力される データは正 当、正確、完 全である。	2-1 アプリケーションとしてのインターフェース機能							
			1 販売管理システムなどの他の業務管理システムから財務会計システムへの仕訳データの受け入れる機能があるか。		○					
	2 機能がある場合、可能な業務管理システムや、機能の内容が開示されているか。			○						
	2-2 汎用データによるインポート機能									
	1 CSVなどの汎用データのインポート機能があるか。			○						
	2 インポートできる汎用データのレイアウトを開示しているか。			○						
3 汎用データの受け入れの際に正当性、正確性、完全性確保のためのチェック機能があるか。		○								
4 汎用データの受け入れの際に、期間帰属性確保のためのチェック機能があるか。		○			汎用データに設定された伝票日付により取込む会計期・月は制御可能である。当期以外の伝票日付が設定される可能性は、受入側ではなく、外部システム側(汎用データ作成元)でチェックすべき内容と考える。					
2-3 汎用データによるエクスポート機能										
1 CSVなどの汎用データのエクスポート機能があるか。		○								
2 エクスポートできる汎用データのレイアウトを開示しているか。		○								
3 汎用データのエクスポートの正当性、正確性、完全性を確保する機能があるか。		○								
システムから出力されるデータが正確で無い										
システムから出力されるデータに重複漏れがある										

プロダクト	SuperStream -CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

質問の カテゴリ	想定する リスク	統制目標	質問項目	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表 場所 (URL など)
							デフォルト (基本設定)	オプション 選択可能	電子帳簿保 存法対応の 場合のみ	
*は、電子帳簿保存法の要求している要件										
3 集計・検索・ 出力の機能	仕訳データが承認された勘定科目に正確に反映されない。  仕訳データの勘定科目合計に漏れや重複がある。  関連する帳票の整合性が取れない。 (不完全、不正確)  仕訳データが検索できない。(不完全、不正確)  仕訳データやログが印字できない。	仕訳データが正当な勘定科目に正確完全に反映され集計される。  必要とされる仕訳データのログは正確で完全に保存され検索可能である。  必要とされる仕訳データやログは印字可能である。	3-1 仕訳データの集計							
			1 入力された仕訳データをもとに、主要会計帳簿の集計結果を正確に作成することができるか。		○					
			2 仕訳データの変更は、主要会計帳簿の集計結果に正しく反映されるか。		○					
			3 バッチ更新処理のタイミング等により、仕訳データの追加、訂正が集計結果に反映されないことが無いようにする制御機能があるか。		○	未更新データが残る場合、月次締め(月次更新)を行うことが出来ない				
			4 関連する帳票間の整合性を確認するために、合計金額・件数等の情報を表示する機能があるか、もしくは照合した結果を表示する機能があるか。		○					
			3-2 仕訳データの検索							
			1 仕訳データを特定する項目を有しているか。また、その項目は何か。*		○	仕訳入力画面にて入力できる全ての項目				
			2 伝票番号の入力方法(自動採番、手入力など)は明示されているか。(番号を入力しないことが可能な場合も記載する)。		○	SuperStreamでは内部統制上問題があると判断し、伝票番号一括付け直しの機能なし				
			3 伝票番号の一括付け直し(月別の連番への付け直し等)が可能な場合に元の入力日付等のログは残るか。		N/A					
			4 伝票番号の欠番チェック及び重複チェックできる機能があるか。		○					
5 仕訳データの処理日である入力日が、データ上保持され、必要に応じ表示できるか。		○								
6 以下の項目により、仕訳データを検索する機能があるか。*		○	①～④ 伝票検索照会の検索条件で指定可能							
			①伝票番号 ②伝票日付 ③入力日付 ④入力者 ⑤承認者	○						
			3-3 出力に関する機能							
			1 出力帳票等に、出力者ID、出力日付(もしくは最終処理日の日付の印字)、出力累計回数等が印字できるか。	○		出力日付は印字可、出力者ID・出力累計回数は印字不可				

プロダクト	SuperStream -CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

質問の カテゴリ	想定する リスク	統制目標	質問項目	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表 場所 (URL など)
							デフォルト (基本設定)	オプション 選択可能	電子帳簿保 存法対応の 場合のみ	
*は、電子帳簿保存法の要求している要件										
4 繰越処理	正しい期首残高が維持されない。	期首残高について完全性、正確性、正当性を維持することができる。	4 年次及び月次等の繰越処理 1 期首残高を確定しないと、仕訳を入力することができないなど一定の制限する機能があるか。 2 期首残高を修正した場合には、修正の証跡を残すことができるか。 3 確定処理後の残高を修正した場合には、修正の証跡を残すことができるか。	○	○	期首残高の確定・繰越処理は一般的に翌期営業月開始後の業務と想定しており、期末残高確定入力(年次更新)を行わなくとも翌期仕訳を入力可能という仕様になっている。				
5 各種法規対応	消費税の入力が不正確、不完全になる。  電子帳簿保存法対応機能が明確でなく設定が不十分でデータの正当性、正確性、完全性が確保されない。	消費税が正 当、正確、完全である。  電子帳簿保存法対応の機能が有効に設定され、データの正当性、正確性、完全性が確保される。	5-1 消費税の処理 1 仮払消費税、仮受消費税の自動計算による仕訳と手入力による仕訳を区別して表示する機能があるか。 2 自動計算した消費税等の金額を手で訂正した場合、ログを残す機能があるか。	○	○	自動計算か手入力かの区別はしていない				
			5-2 電子帳簿保存法への対応可能性 1 電子帳簿保存法への対応を可能とする機能があるか。その場合の対応機能が明示されているか。		○					
6 パッケージの導入保守	想定外のプログラム、パラメータ、データの追加及び変更がなされる。 アクセス可能なDBMS及びOS環境下にて運用している場合、DBMSに直接アクセスしてプログラム、パラメータ、データの改ざんをされる。	変更が必要な対象項目以外は保護されている。  変更された場合には変更の事実を把握できる。  変更履歴が記録される。  適切なアクセス権限の管理がなされている。	6-1 新規セットアップ 6-1-1 システム初期設定項目 (パラメータ) 1 システム管理上の重要な設定項目が変更された場合の変更証跡を残すことができるか。 2 ユーザの希望に応じて初期設定項目そのものを変更することができるか。 3 マスタ・データ (マスタ・ファイル、テーブル) の項目の追加変更の記録が保存され、常時、表示ができるか。  4 特定の項目について変更のタイミングを制御する機能があるか。(例えば導入時や年度の繰越時だけに制限されている等)		○	更新ログの取得は可能、ログは「常時」での表示はしないが専用画面(Log Manager)で参照可能  (例示) 伝票発番方法				



プロダクト	SuperStream -CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

質問の カテゴリ	想定する リスク	統制目標	質問項目	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表 場所 (URL など)	
							デフォルト (基本設定)	オプション 選択可能	電子帳簿保 存法対応の 場合のみ		
*は、電子帳簿保存法の要求している要件											
6 パッケージ の導入保守	想定外のプログラム、パラメータ、データの追加及び変更がなされる。  アクセス可能なDBMS及びOS環境下にて運用している場合、DBMSに直接アクセスしてプログラム、パラメータ、データの改ざんをされる。	変更が必要な対象項目以外は保護されている。  変更された場合には変更の事実を把握できる。  変更履歴が記録される。  適切なアクセス権限の管理がなされている。	6-1 新規セットアップ								
			6-1-2 ソースプログラム								
			1 パッケージ導入時のプログラム変更を防止する仕組みはあるか。(ソースコードは開示しないなど。なお開示とは顧客と合意のうえパッケージのコア部分を改変するような場合を想定している。)				○	エンドユーザー向けにソースコードは開示していない			
			2 カスタマイズが行われよう保護されているか。				○				
			3 カスタマイズをしている場合にはカスタマイズしたことを判別できるか。				○	クライアントモジュールのタイムスタンプによる判別可			
			6-1-3 DBMS								
			1 管理方法の確立している汎用的なDBMSを使用しているか。				○				
			2 DBMSに関するデータインターフェースの仕様の開示ができるか。				○				
			3 パッケージが使用するDBMSのIDはインストール時にパスワードを変更することができるか。				○				
			4 パッケージが使用するDBMSのIDは運用時にパスワードを変更することができるか。				○	コメントによりパスワード変更を行う。			
6-1-4 OS											
1 会計パッケージの一般ユーザに基盤OSの管理者権限を与えない設定ができるか。				○							
2 パッケージに使用するOSのIDはインストール時にパスワードを変更することができるか。				N/A	インストール時にOSのIDは不要						
3 パッケージに使用するOSのIDは運用時にパスワードを変更することができるか。				N/A	OSのID≠パッケージのユーザーID						
6-2 バージョンアップ											
1 バージョンアップ時に、変更される機能は、明示されているか。				○	リリースノートに明記されている。						
2 バージョンアップ時に既存のデータやプログラムに影響がある場合はその影響は明確であるか。				○	同上						
3 バージョンを表示する機能があるか。				○							
4 正常にバージョンアップが終了したことを確認する機能(仕組み)があるか。				○	Streamvisionにて確認可能						
5 バージョンアップ失敗時にロールバックできる機能(仕組み)があるか。				○	システムバックアップにて対応						

プロダクト	SuperStream -CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

質問の カテゴリ	想定する リスク	統制目標	質問項目	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表 場所 (URL など)	
							デフォルト (基本設定)	オプション 選択可能	電子帳簿保 存法対応の 場合のみ		
*は、電子帳簿保存法の要求している要件											
7 システム運 用管理	障害が検知さ れない。 障害に対して 誤った対応が なされる。 障害対応が放 置される。  データ及びロ グを喪失した 際、復元する ことができな い。	障害発生が記 録される仕組 みがある。  バックアップ 及びリカバ リーに関する サポート機能 がある。	7-1 稼動記録の保持								
			1 障害が発生した場合に適切に記録される仕組みになっているか。 2 システムの稼動記録(ログ)を保持し、必要に応じて表示する機能があるか。 3 システムの稼動記録(ログ)の変更は、改ざんできないように保護されているか。			○	障害発生ログはOracle側で取得されるログを想定				
			7-2 データファイルの保全								
			1 会計データの自動バックアップの機能があるか。 2 バックアップファイルを使用したデータのリカバリー機能があるか。				○	SuperStream Backup Managerを使用			
8 アクセス管 理等	職務権限と大 幅に乖離した 権限の付与が なされる。  システム管理 者と一般ユー ザを区分する ことができ る。  システム利用 者の職務権限 とアクセス権 限を一致させ 特定すること ができる。 特定ユーザの ログを収集す ることができる。	ユーザID及び 権限付与状況 の一覧情報が 出力される。  システム管理 者と一般ユー ザを区分する ことができ る。  システム利用 者の職務権限 とアクセス権 限を一致させ 特定すること ができる。 特定ユーザの ログを収集す ることができる。	8-1 システムに対するアクセス制限								
			8-1-1ログイン方法								
			1 ユーザIDとパスワードによりログインできる者を制限する機能があるか 2 パスワードの桁数制限や、アカウントロック機能があるか。			○					
			8-1-2制御方法								
			1 システム管理上の重要な設定項目(ユーザIDの改廃、権限の付与、等)のアクセス権を特定の管理責任者に限定する機能があるか。 2 一般ユーザとシステム管理者の権限を区別して管理する機能があるか。 3 メニューによる機能単位や、勘定科目単位に制限する機能があるか。 4 一定の権限を束ねた権限グループを設定する機能があるか。				○				

プロダクト	SuperStream -CORE	サブタイトル	システム管理基準 追補版 (財務報告に係るIT統制ガイダンス) 付録7	作成者	SSJ商品企画部	更新者	SSJ商品企画部
タイトル	財務会計パッケージの機能等一覧表			作成日	2008.02.13	更新日	2008.04.07

質問の カテゴリ	想定する リスク	統制目標	質問項目	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表 場所 (URL など)		
							デフォルト (基本設定)	オプション 選択可能	電子帳簿保 存法対応の 場合のみ			
8 アクセス管 理等	職務権限と大 幅に乖離した 権限の付与が なされる。  システム管理 者と一般ユー ザを区分する ことができ る。  システム利用 者の職務権限 とアクセス権 限を一致させ 特定すること ができる。 特定ユーザの ログを収集す ることができ る。	ユーザID及び 権限付与状況 の一覧情報が 出力される。  システム管理 者と一般ユー ザを区分する ことができ る。  システム利用 者の職務権限 とアクセス権 限を一致させ 特定すること ができる。 特定ユーザの ログを収集す ることができ る。	*は、電子帳簿保存法の要求している要件									
			8-2 ユーザIDの管理に資する機能									
			1 ユーザIDの一覧を出力する機能があるか。		○	ログ強化による 対応にて履歴入 手が可能						
			2 ユーザID一覧とあわせて最終更新日付を入手する機能があるか。		○							
3 ユーザIDの追加、変更、削除の履歴を入手する機能があるか。		○										
4 すべてのIDのパスワードの変更状況を管理する機能があるか。		○										
5 異動や退職に応じて、期中でユーザの削除、新規登録、権限を変更する機能があるか。		○										
			8-3 ログ収集の可否									
			1 ユーザ（特権ユーザ、一般ユーザ）のログインログを把握する機能があるか。		○	ログ取得とログ参照 で対応						
			2 ユーザ（特権ユーザ、一般ユーザ）の実行ログを把握する機能があるか。		○	ログ取得とログ参照 で対応						
			8-4 権限設定の制限など									
			1 兼務すべきでない権限の組み合わせ等（承認者と申請者が同一の場合等）を制限する機能があるか。		○	承認権限の有無は一 覧表で確認可能						
			2 代理承認等（承認者不在時の対応）の機能はあるか。		○	[承認・未承認リス ト]にて確認が可能						
			3 ある場合には代理承認等であることを確認することができるか。		○							